

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 13 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520503

研究課題名(和文) 現代中国語における方向補語の各種用法に関する横断的研究

研究課題名(英文) A Cross-Sectional Study on the Various Usages of Directional Complements in Modern Chinese

研究代表者

丸尾 誠 (MARUO, MAKOTO)

名古屋大学・国際言語文化研究科・准教授

研究者番号：10303588

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円、(間接経費) 450,000円

研究成果の概要(和文)：

本研究課題では、現代中国語の方向補語の各種派生義を研究対象に、話者の空間認識を念頭に置きつつ、既存の辞書・文法書や先行研究の記述では対応できないものまで含めた個々の用法を掘り下げて分析した。そのうえで、それらの用法について、各補語の横のつながりを重視し、有機的に関連付けられた方向補語の体系を示すことを試みた。

研究成果の概要(英文)：

In the present study we have analyzed the various extended meanings of directional complements in Modern Chinese, taking speakers' spatial perceptions into account. In particular, we have analyzed those usages of directional complements for which the descriptions provided by dictionaries or grammar books is incomplete. In addition, we have attempted to produce a systematic interpretation of directional complement usages which are organically linked to one another.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：中国語学 中国語 方向補語 派生義 現代中国語文法

## 1. 研究開始当初の背景

報告者(丸尾)はこれまで、文中で中心的な役割を果たす動詞の中でもとりわけ人間の認識が反映されやすい「移動動詞」(例: “走”[歩く]、“来”[来る]など)の用法分析を中心に、現代中国語の文法研究に取り組んできた。

前研究課題である平成19~22年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「現代中国語における空間認識に関する体系的研究」(研究代表者:丸尾誠)では、中国人の空間認識の言語事象への反映について、より合理的かつ包括的な解釈を目指すことを目的とした。発話者の認識が最も顕著に反映された文法事象の1つに移動概念を転用した「方向補語の派生義」が挙げられ、前研究課題では、その派生義の分析を中心に進めた。

## 2. 研究の目的

上記の研究成果を踏まえたうえで、本研究課題では、考察の対象を方向補語というカテゴリーに特化して、各種用法を相互に関連付けることにより、その体系化を試みた。

本研究では、話者の空間認識という観点からの用法分析を進め、既存の辞書・文法書や先行研究の記述では対応できないものまで含めた個々の用法を網羅的かつ統合的に分析したうえで、現時点では個別の語の用法についての意味ネットワークの記述にとどまっている学界における研究成果を相互にリンクさせた方向補語の体系を構築することにより、その全体像を明らかにすることを主目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は言語研究であるが故に、大量の用例を収集したうえで、それらを分析していくことになる。この作業は、理論と言語事実を結び付け、その理論の妥当性を検証していくうえで欠かすことができない。用例の収集にあたっては、実際の小説をはじめ、用法辞典、インターネット、および各種コーパスなどを利用したうえで、論文で使用する例については、すべてインフォーマントチェックを受けた。さらに、発話者の認識を解明しようとする本研究の性格上、実証的な検証を通して理論を構築していく過程において、定期的にインフォーマントと面談して議論する必要があった(研究補助として、各年度、博士後期課程の中国人留学生を1名雇用した)。また、学会や研究会での成果発表を通して、多くの研究者からのコメントを受けたうえで、論を修正・発展させつつ、4本の論文を執筆した。

## 4. 研究成果

本研究課題では、主として方向補語のうち、前研究課題では扱わなかった“回、上、下”および“来、去”からなる語句に対して、話者の空間認識という観点からの用法分析を行った。

以下、研究成果である各論文の要旨を(1)~(4)に分けて述べる。

(1)方向補語“回”については、“上、下、起”など他の補語の場合に見られるような派生的な意味(抽象義)への広がりには認められないという点では、日本人学習者にとって一見その習得が困難ではないように思われる。しかしながら、中国語では往々にして「引込める」「退ける」といった行為を方向義と関連付けて“回”を用いて表現する必要がる点については、とりわけ注意を要する点の1つである。

論文「他動詞+“回(来/去)”の形に反映された方向義「取り戻す」「押し返す」意味を中心に」では、中国語で「戻す」イメージで捉えられる動作について、日本語の場合との相違に留意しつつ考察した。そして、補語“回”自体の用法はあくまで方向義で解釈できるものであり、抽象的な派生義は見られないものの、「言葉、笑い、涙」などに方向性を見出して、その取り消しや抑制を“V回”(Vは動詞)の形で比喩的に表現するという特徴を指摘した。

(2)論文「中国語の動補構造“V回(来/去)”について」では、日本語の「戻る」という概念とは必ずしも対応しない中国語の動補構造“V回(来/去)”の用法を具体例とともに概観しつつ、当該の形で表現される動機づけについて考察した。考察の際にはその移動物に着目し、「同類・等価」(例:お金、時間、行為など)、「代替」(例:“寄回来”[送ってくる])、「主体+対象の移動」(例:“買回来”[買ってくる])といった観点から、“回”の使用によって形成される「往復」という事象について論じた。

「主体+対象の移動」については、“V回(来/去)”を構成するVの有する語義を「獲得義」「分離義」「様態義」の3つに区分したうえで、それぞれの事象について分析を行った。

(3)中国語の方向補語“上”については、「附着義」「目的の達成義」がその主な派生義として挙げられる。また、これらとは別に、中国語教育の現場ではあまり取り上げられることはないものの、「開始および継続を表す」という意味を、多くの辞書・専門書の類が独立した項目として挙げている。日本人学習者が「~しはじめる」という日本語を中国語の方向補語を用いて表現するとき通常思いつくのは“起(来)”であり、両者はしばし

ば同義を表すものとして扱われる。同じく上向きの移動を表すものの、“起”は起点指向であることが開始義を表す動機づけとなっているのに対して、“上”については、多く言及される「付着」「目的の達成」といった意味は着点指向に基づくものであり、これは開始義とは相反するものであるように感じられる。

論文「「開始」を表す中国語の動補構造“V上”について」では、“上”の有するこうした語義特徴をもとに、“V上”の表す開始義について考察し、その結果、方向補語“上”は到達義に基づいて、動作の実現・(そういう状態に入るという)ある局面への移行について言及するものであると結論付けた。

とりわけ、この「移行」という捉え方は、新たな事態の発生との関連で、“上”を用いた場合に、統語的に文末の語気助詞“了”が必要となる動機づけと結びつく。そして、本論で言及した「突発性」「連続性」「再発生」「驚き」といった要素は、その事態発生以前の状況とのコントラストを際立たせる働きをするものである。

(4) 発話時以降の継続は通常“V下去”の形を用いて表されるものであるが、これを“V下来”の形で表すことも可能である。論文「中国語の方向補語“下(来/去)”の派生的用法について——「量」の概念との関連から——」では、この場合には将来における、当該の結果が実現される段階に焦点が置かれるという動機づけに基づくものであることを論じた。考察の際には「完了までの過程」を表す“V下来”の用法に見られる時間的な幅を明示する要素についてもあわせて言及した。

また、方向補語“下”には「収容・収納」を表す用法が見られる。本論文では日中対照という観点も考慮に入れつつ、同用法について分析した。

この“下来”の有する「完了までの過程を表す用法」と“下”の表す「収容義」については、前者は「行為の分量」、後者では「物の分量」という観点から、それぞれ行為の遂行が述べられることになる。両用法については、方向補語の各種用法に関する意味ネットワークの構築時に求められるような有機的な意味項目の相関関係を見出すことは困難であるものの、どちらも典型的には数量表現という客観的な指標を導入して、行為遂行の可能・不可能を表現するものであるという共通点が見出せることを指摘した。

こうした本研究課題の一連の成果については、報告書

『現代中国語における方向補語の各種用法に関する横断的研究』(全92ページ)として冊子にまとめた。

そして前研究課題および本研究課題における一連の方向補語の用法に対する考察の総括として、平成26年秋には

『現代中国語方向補語の研究』(白帝社)を刊行する予定である。この本の刊行には、平成26年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付が認められている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

丸尾誠「中国語の方向補語“下(来/去)”の派生的用法について——「量」の概念との関連から——」、『言語文化論集』、査読無、第35巻第2号、名古屋大学大学院国際言語文化研究科、2014、pp.83-97、<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/jspui/handle/2237/19708>

丸尾誠「「開始」を表す中国語の動補構造“V上”について」、『日中言語対照研究論集』、査読有、第15号、日中対照言語学会(白帝社)、2013、pp.123-139

丸尾誠「中国語の動補構造“V回(来/去)”について」、『日中言語対照研究論集』、査読有、第14号、日中対照言語学会(白帝社)、2012、pp.167-180

丸尾誠「「他動詞+“回(来/去)”の形に反映された方向義——「取り戻す」「押し返す」意味を中心に——」、『名古屋大学中国語学文学論集』、査読無、第23輯、今鷹眞先生喜壽記念号、名古屋大学中国語学文学会、2011、pp.25-34

[学会発表](計8件)

丸尾誠「中国語の方向補語の意味と構造を考える——“站起来”と“坐下来”などを例として」(講演)、2014年度広東外語外貿大学南国商学院・名古屋大学中日言語文化講演会、2014年3月9日(日)、広東外語外貿大学南国商学院(中国広州)

丸尾誠「中国語の方向補語“下”の表す収容義」、2014年度華南理工大学・名古屋大学中日言語文化合同研究会、2014年3月8日(土)、華南理工大学(中国広州)

丸尾誠「方向補語“下来”の「完了までの過程」を表す用法について」、2013年度日本中国語学会東海支部例会、2013年11月30日(土)、愛知大学(車道)

丸尾誠「中国語の方向補語“下来/下去”の表す継続義」、第5回中・日・韓日本言語文化研究国際フォーラム パネルディスカッション「日本語教育と中国語教育のインターフェース」、2013年9月

22日(日) 大連大学(中国大連)

丸尾誠「補語の世界への誘い 知識の  
広がりを目指して」(講演) 第12回  
愛知大学孔子学院公開講演会、2013年9  
月14日(土) 愛知大学孔子学院(車道)

丸尾誠「「開始」を表す中国語の動補構造  
“V上”について」、2012年度日本中国語  
学会東海支部例会、2012年11月10日(土)  
中京大学(八事)

丸尾誠「事態の捉え方 中国語の方向  
補語“上”の表す開始義を例として」  
(講演) 大連大学・名古屋大学・九州大  
学学術交流会、2012年10月13日(土)  
大連大学(中国大連)

丸尾誠「方向補語の付与する意味」、華東  
政法大学・名古屋大学合同日本学国際研  
討会、2012年1月14日(土) 華東政法  
大学(中国上海)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

丸尾 誠 (MARUO, Makoto)  
名古屋大学・国際言語文化研究科・准教授  
研究者番号：10303588

### (2) 研究分担者 なし ( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者 なし ( )

研究者番号：